

学校法人 東京滋慶学園 日本医歯薬専門学校 自己点検・自己評価 評価結果及び改善方法

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年5月21日作成

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	3		理念・目的・育成人材像については、様々な場面やツールを用いて周知徹底が図られている。周知対象は、学生、教職員、講師、保護者、入学検討者、高等学校関係者、業界等多岐に渡る。理念、目的等が一貫して伝えられていく事が、理念の実現や目的に達する為には必要不可欠であると考えている。また、業界ニーズの変化をいち早く吸い上げ、それに適するカリキュラムの構築も行なっている。	養成目的:卒業後およそ3年(または業界から求められる人材像)の姿 教育目標:卒業時の到達像	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>こうした配慮が特段に責任ある学校としての姿勢として高評価できる。社会的ニーズに即応している。</li> <li>入学時から卒業後に業界でどう活躍していけるか、想像できるように取り組んでいて素晴らしい。私も学生の時に、どういったDHIになりたいか考えることができ、よかった。</li> <li>教育理念・木滝に沿った人材育成の取組みは適切に行われていると思う。</li> <li>学校自体、時代に即した変化と進捗がなされており、必要なことと思った。</li> <li>常に進化を取り入れられ、カリキュラム構築されている。コロナの終息に伴い、教育理念である国際教育にも力を注げることと思う。</li> </ul>
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか						
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか						
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか						
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		法人として、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、事業計画・運営方針を定めている。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じ、力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議(運営会議・学科会議・部署別会議等)で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。この事が、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。	学校で定めた運営方針・実行方針に基づき、具体的なアクションプランである実行計画を策定するが、その策定に関しては実際の現場担当者が運営方針・実行方針と統合した上で作成している。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体多岐に真摯な運営の姿勢があつて、着実に進めていると思量される。2-6-1会議の持ち方が適切に過不足なく行われている。IT分野に進んで取り組んでおり、緻密である。</li> <li>新しいことを常に取り入れていて、先生方も併映などして大変だと思う。皆さんが働きやすい環境が、もっともっと良くなると卒業生としてうれしい。歯科医院でも働き方改革が進んでいて、時短勤務や週休3日など導入している所が多かった。医歯薬でも、いろんな働き方ができ、卒業生がたくさん医歯薬でも活躍でき、医歯薬を盛り上げていけるといいなと思った。</li> <li>明確な運営方針や事業計画に沿って学校運営を行っていると思う。</li> <li>意思決定機関がそれぞれ責任をもって会議等を実施しているように思う。</li> <li>事業方針、運営方針、実行方針がきちんと定められており大変良いこと考える。</li> <li>2-7-1情報の一元化により退学防止、就職支援へ反映されている。</li> </ul>
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3	学校として、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、学校として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて力を入れている。	学校で定めた運営方針・実行方針に基づき、具体的なアクションプランである実行計画を策定するが、その策定に関しては実際の現場担当者が運営方針・実行方針と統合した上で作成している。運営のチェックはそれぞれの現場の責任者から構成される運営会議により、月2回実施している。			
	2-4-1 設置法人は学校運営のための組織を整備し、組織運営を適切に行っているか	3	意思決定に関しては、決定事項の優先順位付けと意思決定を行なう機関が明確である事が重要である。また、毎年短期的、中長期的視点に立つての事業計画の策定を行っていることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	意思決定機能については、それぞれの「会議」がその役割を果たすが、決定事項に関しては「議事録」のフォーマットに記載するルールとなっており、学校全体で共有できる仕組みとなっている。			
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか						
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3	採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、最も力を入れている。そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賞金決定が行われている。	数値目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務(例:プロジェクト活動など)も過程を評価できるよう「個人定性評価」を導入している。目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようしている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。			
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	意思決定システムは確立されている。各会議は、位置づけや主催、日程が事業計画において明文化している。会議において重要なことは、学校運営が滞りなく行われるよう、運営上生じる様々な問題を早期に発見⇒対策⇒実行という決定を速やかに行う事である。また、会議は教職員の研修の場でもありと考えている。問題を早期に発見した後の数字分析、仮説、立案、実行、検証の思考サイクルは、様々な業務の場面に役に立てられている。	会議は 1. 法人理事会・評議員会(最高決議機関) 2. EAST戦略会議(運営方針の起案会議) 3. 法人学校運営会議(運営方針の問題を発見・対策立て会議) 4. 学校運営会議(学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議) 5. 学校全体会議(決定事項の周知) 6. 学校学科会議・部署会議(部署の問題解決会議) 7. グループ各委員会会議(広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・広告倫理委員会・個人情報保護委員会・学科別教育研究委員会・災害対策委員会・カウンセリング委員会・オリエンテーション委員会) その他、様々なプロジェクトの会議がある。			
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	個別ごとのセクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化が推進されていると考えている。それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたこと、グループ内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。	学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報に紐語がないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防止、就職支援へとつながっている。			

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられている。 各学科の教育目標、育成人材像は、常に業界のニーズを反映させるため年2回の教育課程編成委員会の開催等を実施し学生便覧に明文化している。	人材ニーズの変化や業界そのものの変化に伴う学科の養成目的/教育目標の見直しやカリキュラムの再構築は年度ごとに見直し、定期的に会議の中で学科の運営状況をチェックする機能を持っている。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動が繊細に吟味検証されているものとして高評価するに値する。再試験(3-10-1)を行って、終始学生の面倒を見ることは当然のことながら、追跡を怠らない態度は素晴らしい。</li> <li>・プライベートレッスンや業界セミナー、自分が学生だった頃に、やってほしかった!と思うくらい羨ましい。学生の声を聞いて、いろいろなことに取り組んでいるため、学生にとって学びやすい環境だと思った。</li> <li>・プライベートレッスンの取り組みはとてもいいこと、知識の学習だけではなく、通常の授業より、学生同士、教員と学生とのコミュニケーションを取りやすいと思う。ぜひ、全学科で実施していただきたい。</li> <li>・高校卒業後に入学してくる生徒に対しては、「基地と不安」が入り混じっている状況だと思うので、丁寧な細心の指導が必要だと思う。特に今年の入学性は、コロナ禍の3年を経てきているので、その辺のフォロー体制も必要だと感じる。</li> <li>・プライベートレッスンの動画等活用は新鮮さを感じた。</li> <li>・歯歯業の卒業生は皆、卒業して視能訓練士となって医院に勤務した際にすぐに戦力となってくれる。教育内容の充実によるものと思う。もちろん最新の機器の扱い方は重要だが、原点に戻ってゴールドマンとか対光反射、レチノスコープなどの指導をいただけると嬉しい。</li> <li>・3-9-1~4 放課後サポート、個別対応の成果、効果が報告に注視、継続実践を期待する。【a】(全学科の取り組み)【b】5分動画などの取り組み→授業との一体化、現場とのICTと授業内容をリンクさせてはどうか。3-12-2 教員の資質向上への取り組み、非常に興味深い。医療は常に進歩しているので、講師の資質向上は必要と考える。</li> </ul>
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3	<p>学科の各科目は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野によって、その内容、関連性から適正な位置づけを行うことができる。そして現在実施している様々なプログラムを、キャリア教育の視点をもち体系的に組み直すことで、より効果的なキャリア教育を提供する事ができる。今年度、視能訓練士学科で放課後を利用したプライベートレッスンを実施した。また、授業アンケートを通して、授業評価を実施しているが、受ける学生の視点と、行う講師の視点の2つを重視している。授業アンケートによって明らかになった授業改善点については、講師面談を通じて、フィードバックを行なっている。</p>	<p>視能訓練士学科で実施したプライベートレッスン(放課後個別サポート)を次年度全学科で進化させ展開していく。 *プライベートレッスンは業界セミナー、個別学習サポート、学習動画サポートで構成する。</p> <p>授業アンケートの内容は下記の4区分16問に自由意見を加えた形式としている。 区分1) 授業内容 5問 区分2) 授業手法と教員の行動 5問 区分3) 教育効果 3問 区分4) 学生の行動 3問</p>		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	<p>成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則によって明文化されており、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、教職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。</p>	<p>各科目について5段階評価を行う。 2020年度生はA・B・C・Dを合格とし、Fを不合格とする。 2021、2022年度生はA・B・C・Dを合格としE・Fを不合格とする。 * 科目の評価が不合格(59点以下)の対象者には再試験を行い、その評価Dとする。</p>		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか 資格取得の指導体制はあるか	3	<p>資格取得のための指導体制としては、対在校生、対卒業生ともにシステムとして形になってきている。特に、資格を有していないとその職に就く事が出来ない歯科衛生士と視能訓練士に関しては、100%合格を目標に早期対策授業を実施し、授業前後や休日を利用した個別フォローを行なった。</p>	<p>滋慶学園グループのグループ力を活かし、学校、学科を超えて受験サポートを行う組織「国家試験対策センター」を設置している。このセンターは合格率の向上を目的とし、様々な活動(E-ラーニングの運用、過去問題分析、オリジナルテキストの作成、模擬試験の作成・実施など)を行なっている。万が一不合格で卒業する事になった学生に対しては、卒業対策として無料で対策授業の履修を可能としている。</p>		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	<p>学科の教育目標を達成する為に、講師がその分野のスペシャリストである事と同時に講師要件を満たしている事を講師採用の基準に据えている。採用講師に対しては、初任者講師研修会を通して、授業運営上の留意点、成功事例、学校の理念、望む方向性、養成する人物像等を共有し、コンセンサスを図った上で授業に臨んでもらう。</p>	<p>講師との共有資料として、下記が挙げられる。 ①講師契約書 ②学年暦 ③時間割 ④教育指導要領 ⑤科目シラバス ⑥国家試験出題基準</p>		
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか						

4 教育成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	開校以来、就職希望者の内定率は100%を維持できている。また取得した資格や学んだ知識、習得した技術を活かせる現場への就職(専門職就職)も、95%前後の高い水準を維持する事が出来ている。 これらはキャリア業界連携センターと学科教員が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携を図りながら活動をしている成果であると考えている。 実績： 就職希望者内定率 100% 専門職就職率 98.2% 求人獲得件数 1531件 3246名分	キャリア業界連携センター…就職に関する情報提供及び相談機関を「キャリア業界連携センター」という名称で設置している。設置の目的は ① 凶学希望者には就職活動や卒業後に対する具体的なイメージを持ってもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対して就職支援(面接時におけるスキルアップ指導の実施等)を行う。 ③ キャリアコンサルタントを配置して、学生個々のニーズに合った個別指導を実施する。 ④ オンラインでの就職に関する案内などを配信し情報提供を実施する。	2.9	・4-14-1について、さらなる努力を惜しまないでいることは、まことに姿勢の正しさとなっている。 ・就職専門スタッフや24時間スマホで相談、求人がみられるなど、至れり尽くせりだと思つた。就職してから、福利厚生や社会保険について無知で、知らなかったことを後悔したことがたくさんあるため、ぜひ学生には在学中に学べる機会を作ってほしい。 ・情報提供を充実させてたりICT化を取り入れたたり、個別の対応を行うなど就職支援をされていることが分かった。 ・結果が問われるところなので、幅広く、細かく、厳しく対応していく必要を感じる。 ・国家試験に対する対策がきっちり取られており、学生は恵まれていると思つた。 ・2023年度の対策は既に始まっているので、今後に期待したい。 ・4-13-1 ICTを通じ、就職先、過去の試験内容の情報がキヤッチでき、自身で考え行動する力を備えることができることも感心した。 ・視能訓練士学科は何らかの対策が必要では。			
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	2	各学科で資格取得の目標を達成するために、模擬試験、対策講座、補講を設け実施している。年々、学力低下が課題となっているため1、2年次からの学力把握が不可欠となっている。 実績(新卒)： 歯科衛生士学科Ⅰ部 90.1% *全国平均 95.2% 歯科衛生士学科Ⅱ部 96.9% 視能訓練士学科Ⅰ部 80.0% *全国平均 93.7% 視能訓練士学科Ⅱ部 92.5%	国家資格に関しては、滋慶学園グループの組織として国家試験対策センターがあり、それぞれの資格取得のための支援や試験内容の分析・対策等を行っている。学園全体の豊富なデータを詳細に分析した結果を十分に活用して資格試験対策を計画、実施している。 1、2年次からの学力把握は模擬試験実施を行う					
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒業生が活躍している結果として、求人票や実習先が多く獲得できている。今後は卒業生全員の活躍を学校として確実に把握し、更なるキャリア構築が必要な時期に専門スキル等の支援をしていく。また、在校生が同窓生を通して、業界や地域等で活躍できる場を広げていく産学協同の取り組みがますます必要であると考えている。	同窓生への積極的な情報発信を行うことでより強い信頼関係を構築したい。同窓会・懇親会の他、若年者の離職を防止する観点から、職能団体との情報交換も定期的に行っている。					
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	2	年間目標ならびに年間行動計画を立てて実施しています。学科特性に合わせて全体指導に加え、個別指導を行っています。また、時期にあわせた対応が必要です。就職活動への動き出しが遅い学科に対しては、課題を提示し就職希望先の選定と受験を行なう仕組みを取り入れています。	業界の人事をお招きしての企業説明会を実施しています。また、求人に関わるキャリアコーディネーター(キャリア業界連携センタースタッフ)と、自分の将来に関する相談が出来るキャリアコンサルタントを設置しています。オンラインでの各種申請・報告ができる仕組みを整備しICTの活用を行っています。	2.8	・各項目について謙虚すぎる、内省的な自己調査となっているが、その努力は継続的であつて、学生に精一杯の努力を傾けようとしている。 ・学校側としては数値的に目標達成できなかったと思うが、充分個々の学生にしっかり対応し、サポートしていると思う。また、私の在学中に母親が、『ここまでサポートして安心』と言っていたが、本当にここまで学生の支援を実行していると、保護者は安心して学校に任せられることができると思う。 ・学生の相談体制を整える姿勢がよくわかつた。 ・トータルで見て、学生支援のエリア評価の「2」が多いように思うが、これはコロナ禍の影響を受けていることもあるのか？また、スマートフォンの活用等は、学生が気楽に利用できるもので、さらに幅を広げ継続していただきたい。 ・キャリアコーディネーター、カウンセリングなど、学生相談に関する体制が整備されており素晴らしい。ご縁が無く応募はなかったが、過去何度も当院もOOの求人(医歯薬に)したことがある。眼科医院としても卒後の就職について学生にPRできればありがたい。 ・引き続き充実したサポート体制の維持を期待する。 ・学生相談支援体制が構築されている。学園グループとしてもだが、生活や健康面も多種のスタッフサポートにより、学生もご家族も安心して学生生活を営めると思う。※退学率を低減することは難しいことかもしれないが、理由分析に基づき、よりきめ細やかなサポートが活用されると期待している。 ・学生個々の問題もあると思われるが、それに対応するシステムには問題ないと思われる。			
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	学校全体としては中途退学者率3.6%を目指しており、要因分析や時期ごとのシンドローム対策、低学力・学習力不足対策、実習不応対策などの取り組みにより、全体的には退学率は低減傾向にあります。2022年度の中途退学率は4.7%(昨年度5.6%)でした。	学生の心理面や学習意欲面など、様々な退学への要因になりうるデータを数値化した「キャリアサポートアンケート」を全学生に実施しています。何よりも目的を持って入学を果たした学生からの信頼を獲得するためにも、入学者が必要な資格を取得し、全員卒業する学校作りが求められます。様々な指標を用いて学生の状況を把握し、必要で具体的な対策を適宜講じています。					
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	2	学校内に学生相談室を設置した事で、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制が整備され、しかも有効に機能していると考えています。ここでは専門のカウンセラーが対応にあたっています。 また、全教職員が「JESC認定教職員カウンセラー研修」を受講し、カウンセリングマインドを持ち学生相談にのっています。カウンセリングマインドを持っているからこそ、専門のカウンセラーへ適切なタイミングで繋ぐ事ができています。以上より、学生相談体制はかなり高いレベルで維持されていると考えています。	教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修を実施しています。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESC認定教職員カウンセラー研修」を全員に受講させ試験を実施することで、カウンセリング技術の標準化を図っています。 本部の留学生支援センターに、学園生活での相談が出来るスタッフを配置しています。					
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか		5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	2		入学前から入試事務局、学費担当者が一人ひとりの相談を受け、一人ひとりに合った経済的支援を一緒に考え、経済的負担により進学を断念することのないよう支援しています。「慶生会クリニック」は内科・歯科の2科があり、学生の身体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されています。提携不動産会社などと連携を図り、生活環境の改善に努めています。また、カウンセラーを学内、学外に配置し、悩みがある場合に速やかに相談が出来る環境を整えています。	下記2点の独自の学費サポート制度を取り入れています。 ・予約採用サポートシステム：日本学生支援機構構費と奨学金を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いを可能にするシステムです。 ・ワーク&スタディ、分納プラン：ワーク先の紹介とともに無理なく学費納入ができるよう、学費分割での納入プランです。 精神面の健康管理については、「滋慶トータルサポートセンター」を中心に、本校には「学生相談室」を設置し、学生生活全般における不安や悩みの相談にのっています。		
	5-19-2 学生の健康管理を担う体制を整備しているか	5-19-3 課外活動に対する支援体制を整備しているか	5-19-4 学生寮の設置など生活環境への支援体制を整備しているか			5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	出席状況その他で課題が見られた場合には、保護者と連絡を取り、状況の共有を図っています。必要に応じ、保護者と学生を交えた三者面談も行っています。また、学期またはクォーター毎に成績の発送を行って、定期的に学習進捗の確認を行ってもらえるような体制を整えています。 歯科衛生士学科においては、3学年で保護者会を実施し、臨床実習、国家試験に向けて、ご家庭の協力が必要不可欠である事を伝えています。	適宜、保護者会、保護者面談を実施し、学事報告を行っています。 また保護者参加の行事(登院式ほか)においても保護者向けの説明会を開催しています。
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業生のキャリア開発は母校の役割、責任として捉えています。業界から恒常的な信頼を得る為にも、卒業生の活躍は不可欠です。その為の一助となるよう、同窓会は単なる懇親会ではなく、技術講習会や卒業生講師制度、聴講生制度を整えています。また、卒業生は全員が同窓会会員になります。			卒業生ニーズに応える「再雇用求人紹介」など現場復帰のための機会提供を充実し、生涯働きながら学び続ける機会を増やしていくことが必要です。			
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか		5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	施設・設備・教育用具等を必要性に対応して整備できている。実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室は「現場を再現する」という視点で整備を行なっている。この実習室で授業を行なうから現場実習に臨むので、皆スムーズに実習をスタートさせる事ができている。図書室や実習室などの学習支援施設をはじめ、手洗いなどの施設も十分に整っている。実習室の機器等に関しては点検・整備などの対応も適切に行っており、事業計画によって改築・改修・更新計画をしっかりと立てている。	学内にある各実習室では、実践的に学ぶことができる環境を整える為、現場で使用している機器をそろえている。 また、新たな教育機器として歯科衛生士学科ではVR・ARを活用した教育を進めている。これは文部科学省委託の実証研究事業として認定されており、2021～2023年度の3年間での開発・実証となっている。	3	・防災、安全に対する準備が整っており、現場実習を大切にしていることが評価できる。 ・解剖の授業はただでさえ難しく、苦手に思っている学生が多いと思う。先生がいろいろな取り組みをしても、苦手な学生は多いが、VRを使うことで、楽しくわかりやすく授業を受けることができとても良い。 ・VR、AR教材の活用は、学生にとってよりわかりやすく、関心が高まることだと思う。また、防災などの対策も行い、安心して学習ができる環境を整えていることがよくわかった。 ・学生向け、教職員向けと定期的実施している防災訓練は大いに評価できる。学内の安全点検も同様。 ・過去何度か医歯薬の実習生を受け入れたことがあるが、皆大変熱心に取り組んでいた。VR、ARの導入は素晴らしい。今の学生のように私も学びたいと思う。 ・①AEDは一階に設置されているとのことで、低層なのは良いが、高層階用に設置可能であればより効果的と思う。②2022年からのVR、AR活用教育は学科全体か？(歯科のみ?) 摂食嚥下のチームカンファレンスに活用でき、非常に興味深く拝見した。③就活時、医療機関に提案(学習成果)を希望する。地域カンファレンスにも有効。a: 施設 b: 医療 c: 歯科
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	学外実習(歯科衛生士学科:217施設・視能訓練士学科:96施設)・インターンシップ・海外研修の実施は、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を高いレベルで具現化しており、実施体制を整備している。各学科の養成目的・教育目標に照らしてその教育効果は極めて高いと考えており、その体制もできあがっている。	2022年度においてはコロナ禍の影響で渡航を伴う海外研修を断念したが、各科で工夫をして学外での国際教育の実施に努めた。具体的にはJICA訪問、東京都教育委員会が提供するTGGにて英語授業体験などを実施した。 臨地実習においては各実習施設の協力のもと、コロナ禍以前とほぼ変わらない状況で実施することができた。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災組織を整備しかつ、適切に運用できている。毎年4月、教職員、学生への防災訓練を実施、地震や火災の際の避難経路を常に確認するなど、体制整備とチェックを重視している。現状、災害時の最低限の準備と教職員、学生への動機付けは図られている。 学内の安全管理体制を整備しかつ、適切に運用している。救急時における知識の習得と意識付けは、AEDや心肺蘇生法の講習会を通じて、十分に行われている。入り口を無人にしないようシフトを組んで受付に常駐、および午後から夜間にかけて専属の担当を置いている。また、危険物の管理に関しても同様である	・緊急地震速報システムを設置し、いざという時に備えている。 ・安否確認システムを構築し、万が一の際の学生の安否確認の一助としている。 ・全学生数分のサバイバルキットを備えており、万が一の場合の3日間分の食料、水、防寒への対策を立てている。 ・スタッフ用ヘルメットの設置 ・防災マニュアルの整備		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内の通り、適正に行われていると考えている。また、学内に広告倫理委員会を設置し、広報活動の適正さをチェックしている。。	広報は、単なる学生募集ではなく、「入学前の教育」と位置づけしており、体験授業や実技特待生講座などを通じて職業理解を深め、個別面談で一人ひとりの「やる気」や「適性」を確認している。	3	・7-26-1、7-26-2について、この評価の在り方は素晴らしい、学生支援の体制ができていて。 ・LINEアカウントを導入しているが、もっとInstagramやTwitterからも登録者を作る流れを作ったほうが良い。夜間部が減少したことについては、昼間でも働く時間が多く取れるようになり、夜間のメリットが薄れたと感じた。私も今なら夜間ではなく昼間を選ぶと思う。夜間のメリットももっと増やせると良い。 ・オンラインを活用し、今の時代に合った対応をしていると感じた。 ・入学案内の細かいオンライン説明会などはコロナ禍解消後も継続が良い。学生、保護者向けライブ配信も同様。 ・LINEの利用は時代に合った良い方法。当院のCO3名が医歯薬の卒業生。一度社会人になってから医歯薬で学びCOIになっている。COIは社会人の方で学びなおしが多いと思うので、そのような方々にLINEでの募集が効果的なのではないか。 ・LINEの公式アカウントを設け、現在の学生に合わせて、来校前の段階からデバイスを通じて情報入手ができる取り組みは有効。それらの影響がどれくらいあったかが知りたい。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り、選考を行なっている。結果として、公平性が保たれていると考えている。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面接の比重を高くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。いる。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。□ また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の奨学金予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。		
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか						

8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	右記にあるような厳しいチェックならびに評価を行っている。結果として債務超過や資金不足に陥ったりはしていない。よって、中長期的には財務基盤は安定し、学校運営も安定していると考えている。また5か年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができている。	以下のチェック機能がある。 事業計画(財務計画・収支予算書) 1. 学園本部によるチェックと理事会・評議委員会による承認 2. 四半期ごとの学園本部によるチェック 3. 修正予算の作成: 学園本部によるチェックと理事会・評議委員会による承認 4. 計算書類の作成と学園本部によるチェック 5. 監事および公認会計士による監査 6. 計算書類、事業報告書の理事会・評議委員会による承認	3	・適切に行われている。 ・今年から評価委員会でも財務諸表等公開されたが、外部への守秘義務等も考えながらの継続が必要。保護者、卒業生に対して安心感を与える。 ・財務についてもきちんと報告を受け公開されており、信頼できる。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	予算編成の方法については短期的と中長期的それぞれの視点に立って行っているので妥当な方法と考えている。 5年先を見越し、中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議委員会と複数の目でチェックする為、より現実に即した予算編成になっているものとする。	「「当初予算」→「四半期予算・実績対比」→「修正予算」→「決算」という流れの中で、収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えられる。 監査を有効に実施してもらうために、証書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	財務体制の整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後も、いかなる法改正にも迅速に対応していく事が出来る組織であると自負している。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。			
9 法 令 等 の 遵 守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、2010年度で完全に整備させた。	監事監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。また、適正な学校運営のため、適宜、学内研修を行っている。 【研修実績】 ・ITリテラシー(2022年5月30日) ・学校教育にかかわるコンプライアンス(2022年11月29日) ・合理的配慮(2022年12月6日) ・各種ハラスメントに関する研修(2023年2月7日)	3	・適切に遵守している。 ・法令が遵守されていることが確認できた。 ・医療にも昨年度よりITリテラシー及びサイバーセキュリティ研修が強化されているので、学生の授業にも必要と思う。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護に関しての教職員への啓蒙(TRUSTeより講師派遣)と、その運営体制の整備に更に力を入れる事を考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。また、教職員・学生全員がITリテラシー(通信・ネットワーク・セキュリティなど、ITにひも付く要素を理解し、自分の目的に合わせて活用できる能力)講習を毎年受講している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	2017年度(2018年3月)終了時点で、歯科衛生士学科Ⅰ・Ⅱ部の職業実践専門課程認可を受けている。2018年度終了時点で視能訓練士学科Ⅱ部・医療事務学科のキャリア形成促進プログラム認可を受けている。また、2023年3月27日付けで視能訓練士学科Ⅰ部が職業実践専門課程の認可を受けた。	私立専門学校等評価研究機構の内容に準拠し、自己点検・自己評価、学校関係者評価を計画的に実施している。		
	9-34-2 自己点検・自己評価結果を公開しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
	9-34-4 学校関係者評価結果を公開しているか					
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	ホームページ等で公開している。公開内容を定期的に精査・更新している。	【ホームページ(情報公開)リンク】 <a href="https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/">https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/</a>			
1 0 社 会 貢 献	10-36-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	コロナ禍ではあるが、杉並区と連携し歯科衛生士学科は良い歯健康フェス、視能訓練士学科は小中学校を対象とした眼科検診を行った。 国際交流は国内にてスウェーデンとオンラインで繋ぎ、文化や習慣に触れ、歯科業界の事情や最新の設備・技術を学んだ。		2.9	・学生が良い歯健口フェスを通して、いろんな患者(人)へあった説明ができて、学生の良い経験になると思う。 ・今後、より積極的に社会貢献、地域医貢献を通して、チームワークが取れる人材を育成していただきたい。 ・コロナ禍も一つの山を越えつつあるように思う。行事参加には積極的に取り組んでいただきたい。 ・杉並区小中学校の学校検診はスキルを付与させるために本当に良いこと。私自身、保育園検診でレチノスコープを用いて弱視発見に努めており、自分自身スキルアップになっていると思う。 ・コロナ禍にあっても工夫を凝らした実施状況に、今後再び地域活動への期待ができる。 ・「6」の教育環境のVR、ARを活用し、地域での交流に取り組みをしても良いと思う。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	今後も地域と共に発展していく学校として、地域に根ざした学校づくりを目指し、社会貢献活動に積極的に参画することを継続させていきたいと考えている。 また、コロナ禍以前にボランティア活動として参加させていただいた地域の催事を通して、社会貢献に携わっていきたい。	コロナ禍により予定していた社会貢献ボランティアの実施を中止せざるを得なかったが、次年度以降、積極的に取り組んで行く。		